

「踊る弁護士」を目指して

会員 金湖 恒一郎



我が街北千住

私の所属する法律事務所は、北千住駅西口の「本町センター商店街」の一角にある。たまに北千住が千葉県だと思っている方がいるので念のため申し上げれば、北千住は足立区にあり、足立区は東京の仲間だ。

北千住は、駅前にルミネや丸井もある、お洒落なビッグシティである。ちなみに、「南千住」は荒川区にあるので注意されたい。

当事務所は、地域の皆様に愛されて40年、依頼者には商店街の皆さんも多い。毎日のように顔を合せているので、事件処理が遅れようものなら、「あ、そういえばセンセ、この前お願いした件、どうになりました？」といわれるので気が抜けない。おかげで、スピーディーな事務処理能力が身に付いた（はずである）。

下町らしい人情豊かな街である。人情味が溢れすぎて、たまに法律相談料が佃煮（手作り）になったりするが、それもまたよしである。

英語で Go!

そんな下町の法律事務所にも、英語を使う案件は意外とあったりする。前職（日本航空）で海外支店に駐在していたこともあり、そういった案件は私が対応させていただいている。また、私の所属する期成会の英語部では、「読めばたちまち英語で法律相談ができてしまうトレーニングブック」を作ろうという話で盛り上がっている（タイトルは「法律相談 英語で Go!」と密かに決めている）。

ヘルシーライフ

弁護士たるもの、体が資本。というわけで、週に

一度のジム通いは欠かせないが、最近は健康食品にも手を出している。体脂肪が燃焼しやすくなるコーヒーだの、脂肪がつきにくくなるヨーグルトだの、片っ端から試しているが、試し過ぎて、いったいどれが効いてどれが効かないのかさっぱりわからない。

「踊る弁護士」を目指して

ひょんなことから、タンゴのレッスンを受けるようになった。何事もまず形から入るのが肝心なので、まったくの初心者であるにもかかわらず、タンゴ専用シューズ（しかも色は赤）を買ってみた。この原稿を書いている時点では、まだ商品は届いていないのだが、きっと素敵なおシューズに違いない。なんといっても、アルゼンチン人のタンゴの先生が自ら採寸してくれた、オーダーメイドのシューズである。採寸に際しては、足の型を採るだけでなく、足の甲の高さまで測る念の入れようであった。そこまでしてくれたにもかかわらず、採寸したのはなぜか右足だけであったが。そのあたりのアバウトさも含めてタンゴの奥深さなのだろう。

レッスンは、まずみなで輪になって歩くことから始まるのだが、これが意外と難しい。「下腹に力を入れて、頭から糸で吊されているようなイメージで、体はやや前傾だが猫背にならないように注意して、スタスタ自然に歩け」といわれるのだが、そんなにいろいろ注文されたら、とてもスタスタ歩けたものではない。

その後、サリーダやバルドッサといった基本のステップを教わる。同じ基本ステップでも、先生や上級者の優雅な舞いと、私のギクシャクした動きとでは、天と地ほどの差というか、もはや別の競技である。「踊る弁護士」への道は険しく遠いが、明るく楽しく目指していきたい今日この頃である。